

令和6年度第2回 倉敷市地域福祉基金運営委員会

日 時 令和7年2月14日（金）13時27分～14時35分

会 場 倉敷市役所西側第2分室 109会議室

出席者

委員 植田委員（会長）、宇野委員、岡本委員（副会長）、小松原委員、諏訪委員、田口委員
田仲委員（監事）、田野委員、藤澤委員（監事）、松浦委員、
事務局 保健福祉局）森局長、佐藤副参事
保健福祉推進課）笠井課長代理、白神主幹、伊達主任、高橋副主任、倉本主事
傍聴者 なし

議事内容（要旨）

1 開 会

委員10名の出席により、倉敷市地域福祉基金運営委員会規約第9条第2項の規定に基づき、会議が成立していることを確認し、開会を宣言した。今回の会議から、藪田委員の後任として市議会保健福祉委員会の田口保健福祉委員会委員長が、木村委員の後任として倉敷商工会議所の田仲様が就任したため、委嘱状の交付を行い、各委員が自己紹介を行った。

規約に基づき、会議の進行を植田会長に依頼した。

2 議 事（発言者：◎会長 ○委員 ■事務局）

（1）令和6年度事業の報告について

■ 資料に従い説明を行った。

○ 夏のボランティア事業について、大学生がお一人申込されているが、こういった経緯で申し込みされたのかもし分かれば教えていただきたい。また、学生への広報はどの地域まで広報しているのか。また、令和7年度の予算が今年度、前年度の決算額より20万円程増額されているが、これは物価高騰等の影響を反映したものなのか。

■ 今回申込された大学生は中学・高校時代に当事業に参加した経験があり、この度直接本人から申込されたと聞いている。また、学校への広報は市内にある中学・高校に周知している。最後に、令和7年度の予算額だが、令和6年度についても予算額ベースでは524千円であり、令和7年度が増額されているものではない。予算額は過去5年の実績額の平均から算出している。これに関しては、後程詳しく説明する。

○ 夏ボラの参加者集計に個人名の記載があるが、これは記載すべきではない。また、玉島高校が申込者13名に対し、修了者が0人なのは何か理由があるのか。

■ 個人名の記載についてはこちらの確認不足で消していなかった。今後は記載しないこととする。玉島高校の件については委託先の担当者に確認する。

*****承認*****

（2）令和7年度事業計画（案）について（ア 令和7年度倉敷市地域福祉基金事業計画案について）

■ 資料に従い説明を行った。

- 委託事業について、現在2事業行っているが、過去にはこれ以外の事業を行っていたこともあるのか。
- 過去10年前くらいでみれば、当2事業しか行っていない。ただ、基金創設から30年以上経っているの、それ以上前のこととなると調べてみないと分からない。
- 委託事業は、ある程度継続性のある事業になると思うが、具体的な要件や申請書の様式が助成事業のように決まっていな。委託事業はどういった形で申し込みをしているのか。また申し込みについては広く周知はされているのか。
- 委託事業については、現在実施している2事業の各団体にしか依頼をしていないので、広く公募などは行っていない。要件や様式は、各団体と個別に協議しながら決めている。新たな委託事業を始めるとなれば、こちらで要件等を示したうえで広く公募するのが適当と思われるので、またご意見をいただきたい。
- 例えば助成事業で助成を受けていた団体がその後、委託事業として関わっていきたくかそういったことがあれば、新たな委託事業として始めてもいいのではないかと思う。
- ◎ スタートアップの支援として助成事業を行い、継続性のある事業の支援として委託事業をしているが、過去30年余りの中で、委託事業を決めるにあたっての枠組みや、取り決め等の資料があれば示していただきたい。
- 確認して資料等があれば情報共有させていただく。
- しらかべ号の実行委員会とはどういった団体か。夏ボラは社会福祉協議会なのでよく分かるが、しらかべの方は実態が見えない。また、参加費を1万円徴収しているようだが、ボランティアからも参加費を徴収しているの、予算に余裕があるのであれば、補助しても良いのではないか。
- まず、しらかべ号実行委員会の委員長である浅木委員長は、歯科医院を運営されている歯科医の方。実行委員会は、浅木先生と交流のある医療従事者が中心となって結成された任意団体である。「ひまわり号を走らせる会実行委員会」のメンバーも在籍していると聞いている。ただ、最後に実施されたのが令和元年度なので、実行委員会のメンバーも生活環境が変わり、人数も減ってきている、とのこと。また、ボランティアの方への参加費補助は、現在学生と医療従事者のボランティア参加者には補助を行っている。
- 助成事業は助成期間が3年だが、その後の活動はどのように把握しているのか。
- 助成事業については、1度でも助成を受けた団体には5年間アンケートを受けていただくようお願いしている。従って、助成期間終了後も2年間はその後の活動について確認できている。その後はこちらから積極的に団体へ連絡等は行っていないが、団体の方から近況を報告してくれることもある。
- ◎ 倉敷市では、当基金以外にもボランティア団体に助成を行う課があると思うが、そういった課との連携はどうなっているのか。
- 育児相談といった子育て支援事業であれば子育て支援課に、高齢者サロンといった事業であれば健康長寿課に情報共有している。団体の事業内容によって適切な課と連携を取って情報共有している。

*****承認*****

(3) 令和7年度事業計画(案)について(イ 令和7年度助成事業の募集計画について)

- 資料に従い説明を行った。

- 団体調書の一番下にある「過去の実績書があれば添付のこと」は不要ではないか。
- 申請2年目、3年目の団体については過去の実績があるので添付をお願いしている。ただ、1年目の団体については、確かに実績はないはずなので、書きぶりを修正する。
- 委託事業は物価高騰を反映して予算を増額しているが、助成事業の助成金額についてそういった検討はないのか。
- 事務局ではそういった意見は出なかった。
- ◎ 委員の方で意見はどうか。10万円という助成金額もしばらく変わっていないように思えるが。
- 例えば団体の所属人数に応じて金額を変えるとといった方法もあるかもしれない。
- ◎ 助成金額を変更するとなると、どういった段取りで行うようになるのか。来年度から変更できるのか。
- 令和7年度はすでに予算額も確定しているため、現助成金額で実施させていただき、次回の運営委員会にて、事務局で他基金の助成等も参考にさせていただいた上で改訂案を提示させていただきたい。
- 次回の運営委員会までに団体へアンケートをしてもらって、団体の意見も反映していただきたい。

*****承認*****

3 閉会

以上により、議事を終了